徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課海洋生産技術担当

海況

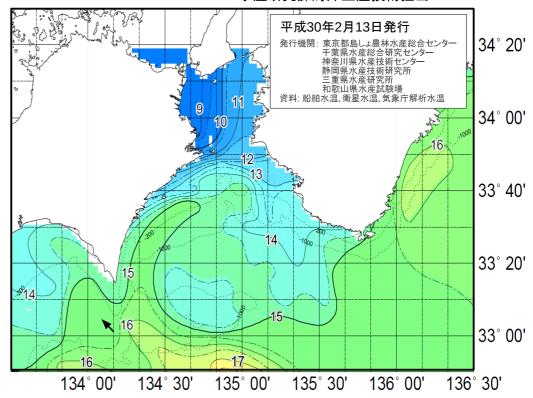
1. 周辺海域の水温

黒潮は、室戸岬沖では引き 続き「離岸」、潮岬沖では「著 しく離岸」で推移した

徳島県沿岸の水温は、播磨灘で7°C~8°C台、紀伊水道で8°C~11°C台、海部沿岸で10°C~14°C台と低くなっている。

黒潮の表面温度は18℃~20℃台となっている。

沖合の黒潮から室戸岬東 岸に時計回りの暖水波及が あるとみられる。

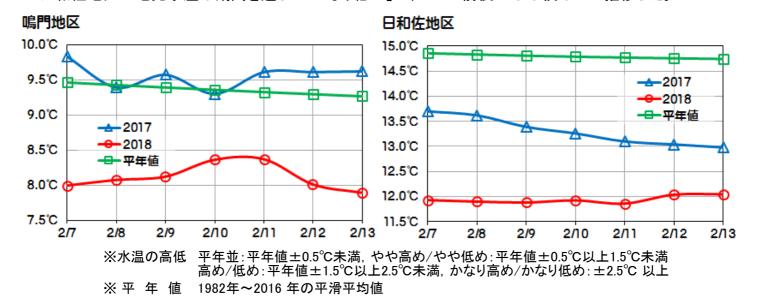


海況図は、平日夕方に水産研究課HPの「地先水温情報」のページに、前日分と当日分を掲載しています。

2. 地先水温(2月7日~2月13日)

鳴門地区の地先水温は期間を通じて「やや低め」で、10日と11日に8.4℃となったほかは8.0℃前後と低く、13日には7.9℃となっている。

日和佐地区の地先水温は期間を通じて「かなり低め」で、12.0℃前後のほぼ横ばいで推移した。



3. 週間予報(2月14日~2月20日)

黒潮は、室戸岬沖では「離岸」、潮岬沖では「著しく離岸」で推移する見込み。

地先水温は、鳴門地区は「やや低め」~「低め」の7°C台、日和佐地区は「かなり低め」の12°C台で推移する見込み。

漁況 │ 2018年2月5日~2月11日 (旧暦12月20日~12月26日)

1. 紀伊水道(標本漁協数:3)

延縄では、シマフグ、サワラがそれぞれ増えて0.4~水揚げされた。

小型定置網ではキチヌ(きびれ)が前週並みの2.3~、ボラが増えて大主体に1.4~、マアジが前週並み の1.0~水揚げされた。

底びき網では、コウイカが大きく減って1.1~、シリヤケイカがやや増えて0.8~水揚げされた。

2. 海部沿岸(標本漁協数:4)

釣りでは、ブリが0.4~、、シロサバフグが0.3~、水揚げされた。

建網では、ヒラメが大きく増えて0.3~、カサゴが前週並みの0.2~水揚げされた。

小型定置網では、カタクチイワシが前週並みの0.7~、マアジが減って0.6~、水揚げされた。 大型定置網では、スルメイカが小小主体に0.4~水揚げされた。

漁獲量集計表(漁獲が0.25以上のものを抜粋)

The state of the s							
海区	漁業種類	出漁隻数 (のべ)	魚種	漁獲量	(kg) 1日1隻あたり 平均漁獲量	銘柄	前週比※
紀伊水道	延縄	35	シマフグ	441	13		7
		26	サワラ	426	16		7
		9	ブリ	204	23		7
	小型定置網	23	キチヌ	2,286	99		\rightarrow
		12	ボラ	1,415	118	大主体	7
		22	マアジ	950	43		\rightarrow
		23	クロダイ	350	15		\rightarrow
		19	マダイ	202	11		77
	底びき網	42	コウイカ	1,148	27	大主体	77
		39	シリヤケイカ	797	20		7
		28	えそ類	396	14		7
		29	かます類	305	11		77
		37	ホウボウ	237	6		7
		15	マナガツオ	216	14	小主体	11
海部沿岸	釣り	36	ブリ	396	11		11
	延縄	8	シロサバフグ	320	40		11
	建網	61	ヒラメ	338	6		11
		36	カサゴ	228	6		\rightarrow
	小型定置網	22	カタクチイワシ	735	33		\rightarrow
		16	マアジ	596	37	小小主体	7
	大型定置網	6	スルメイカ	398	66	小小主体	11
			ブリ	226	38	めじろ主体	>

最近の低水温について

いつも週間漁海況情報をご利用いただきありがとうございます。

昨年末以来、強い寒気や黒潮の離岸の影響か、徳島沿岸では海水温が低い状態が続いています。 鳴門地区 の地先水温は8℃前後で推移しています。近年では、2006年や2011年にもこの時期水温が低い状態が続いた例 があり、その際には最低水温が7℃台を記録しています。日和佐地区の地先水温は2月6日以降11℃台となってい ますが、これは記録のある1982年以降で初めてのことです。

2月、3月は一年で最も水温が低くなる時期です。皆様十分ご留意ください。

